

- EDU-Portニッポン トピックセミナー -

ミャンマーにおける 自動車整備士育成事業の紹介

2019-02-06

株式会社ジャイアントリープ・インターナショナル

瀬戸川教彦

専門学校と事業会社



岡山科学技術専門学校
(KAGISEN)

1988年創立

「自動車工学科」「建築学科」「電気工学科」など工業系9学科を構え、専門技術の習得と様々な国家資格取得を目指す教育を提供。
2011年より日本語学科を設置し主にアジアからの留学生を受入。



GIANT LEAP
INTERNATIONAL, INC.

2017年創立

海外における人財育成（教育）事業をKAGISENに代り、より能動的に、より機動的に行うことを目的に設立。KAGISENが培ってきたミャンマーほかアジアでの事業拡大を推進中。

包括的提携関係

- ・教員の出向（派遣）
- ・教育知見・コンテンツの提供
- ・海外提携先職員の研修受入れ

- ・海外提携先での教育事業実施
- ・海外でのKAGISEN広報・留学生募集活動

KAGISEN & GIANT LEAP

1. 海外展開にいたるきっかけ

1-1. 海外展開の 動機

世間では

- ・ 海外進出・取引がある企業増加
- ・ 海外で日本の技術指導に期待高まる
- ・ 日本国内外での技術者急速に不足

我々の強み

- ・ 幅広い工業系学科を設置
- ・ 四半世紀以上の職業技術教育実績
- ・ 既に留学生受入れ取組済み

身の回りでは

- ・ ジェトロ岡山主催セミナーでヒントを得る
- ・ 物流企業からミャンマーでの技術者育成の打診を受ける
- ・ 他岡山企業もミャンマーに関心高まる

我々の悩み

- ・ 18歳人口の急速な減少
- ・ 大学の職業訓練学校化が進む
- ・ 東日本大震災の影響で中国からの留学生減少

論点



荒木 義宏氏
日本貿易振興機構海外調査地主兼
ミャンマー駐在員
2007年10月～2011年9月
ヤンゴン事務所
長 56歳

ミャンマーに職業校を

援

クリントン米国防長官の昨年末のミャンマー訪問以来、同国に関する報道が注目を集めたようにあふれ出した。日本の政府関係者のミャンマー訪問も相次ぎ、4月には同国のテイン・セイン大統領の訪日予定が発表されている。

では留学あっせん業者が花盛りだ。これでは頭脳流失がますます加速される。そこで筆者はミャンマーの若者を教育面で積極的に支援することを提案したい。日本で留学の受け入れを拡大することも有効だが、それよりも重要なのは現地の人材育成プログラム

ンマーの識字率は90%以上と高い。初等教育から英語が非常に良く通じる国である。最近では韓国語の人氣が高まっているもの、昔から日本語熱も極めて高い国であり、コミュニケーションは容易である。しかし、技術面は心もと

では留学あっせん業者が花盛りだ。これでは頭脳流失がますます加速される。そこで筆者はミャンマーの若者を教育面で積極的に支援することを提案したい。日本で留学の受け入れを拡大することも有効だが、それよりも重要なのは現地の人材育成プログラム

業校を

を充実させることだ。とりわけ、来るべき外資ラッシュでの人材ニーズに応えるために、国際的に通用する実践的な職業訓練学校を設置してはどうだろうか。

「もうすぐ外国企業がミャンマーにどっとやってくる。私の学校の卒業生は地場の企業に就職した者もあるが、自ら起業して経営者となった者も多い。」

を充実させることだ。とりわけ、来るべき外資ラッシュでの人材ニーズに応えるために、国際的に通用する実践的な職業訓練学校を設置してはどうだろうか。

「もうすぐ外国企業がミャンマーにどっとやってくる。私の学校の卒業生は地場の企業に就職した者もあるが、自ら起業して経営者となった者も多い。」

このためには民間の力も欠かせない。日本の民間の専門学校は製造業の現場で働く人材育成に大きく貢献しており、そのノウハウが大いに役立つのではないだ

「もうすぐ外国企業がミャンマーにどっとやってくる。私の学校の卒業生は地場の企業に就職した者もあるが、自ら起業して経営者となった者も多い。」

を充実させることだ。とりわけ、来るべき外資ラッシュでの人材ニーズに応えるために、国際的に通用する実践的な職業訓練学校を設置してはどうだろうか。

「もうすぐ外国企業がミャンマーにどっとやってくる。私の学校の卒業生は地場の企業に就職した者もあるが、自ら起業して経営者となった者も多い。」

1-2. 海外展開 & ミャンマー 選択の後押し

荒木義宏 (2012) 「ミャンマーに職業校を」, 『毎日新聞』 2012年3月22日付朝刊, 13(13).

2. 事業への取り組み

2-1. ミャンマー 連邦共和国



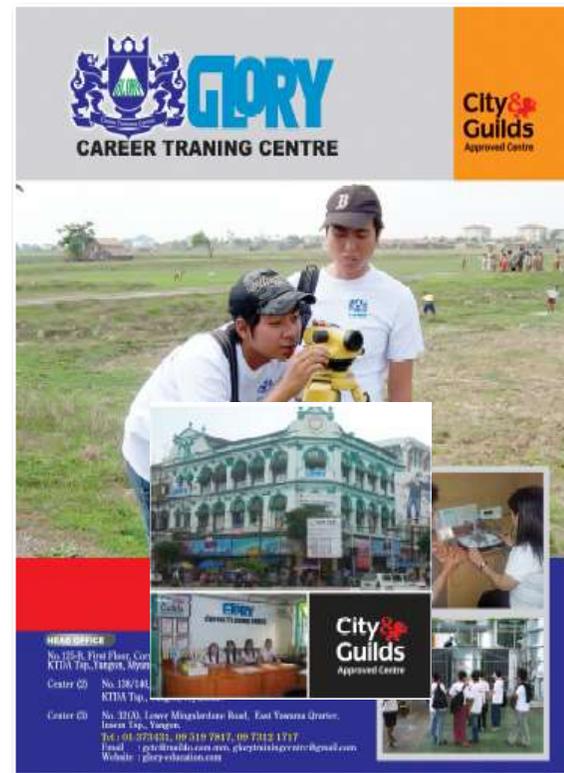
2004年開校の工業系職業訓練校大手

民間職業訓練学校。工業系の基礎技術を数か月から数年間学べる約40のコースを設置。上級コースは英国のCity & Guilds of London Instituteの認定コース。在校生は500名ほど。開校以来のべ1万5千名の学生が学んでいる。

2-2. 提携校 GLORY Career Training Centre

ジェトロ海外調査部レポート抜粋

- 1998年にYIT(ヤンゴン工科大学)で電子工学の学位を取得。80名の同級生のうち60名がシンガポールに行くのを見て、“国に残って後身を育てよう”と決意
- 2004年自らGLORY Career Training Centreを設立
- 2005年より英国の職業訓練校であるCity Guildsと提携
- エンジニアリング関係では政府の職業訓練校が30校あるが、教師の質、教材不足などで卒業しても就職は難しい
- 日本の専門学校との提携には非常に関心がある。日本企業がミャンマーに進出した時に必要な人材を用意したい

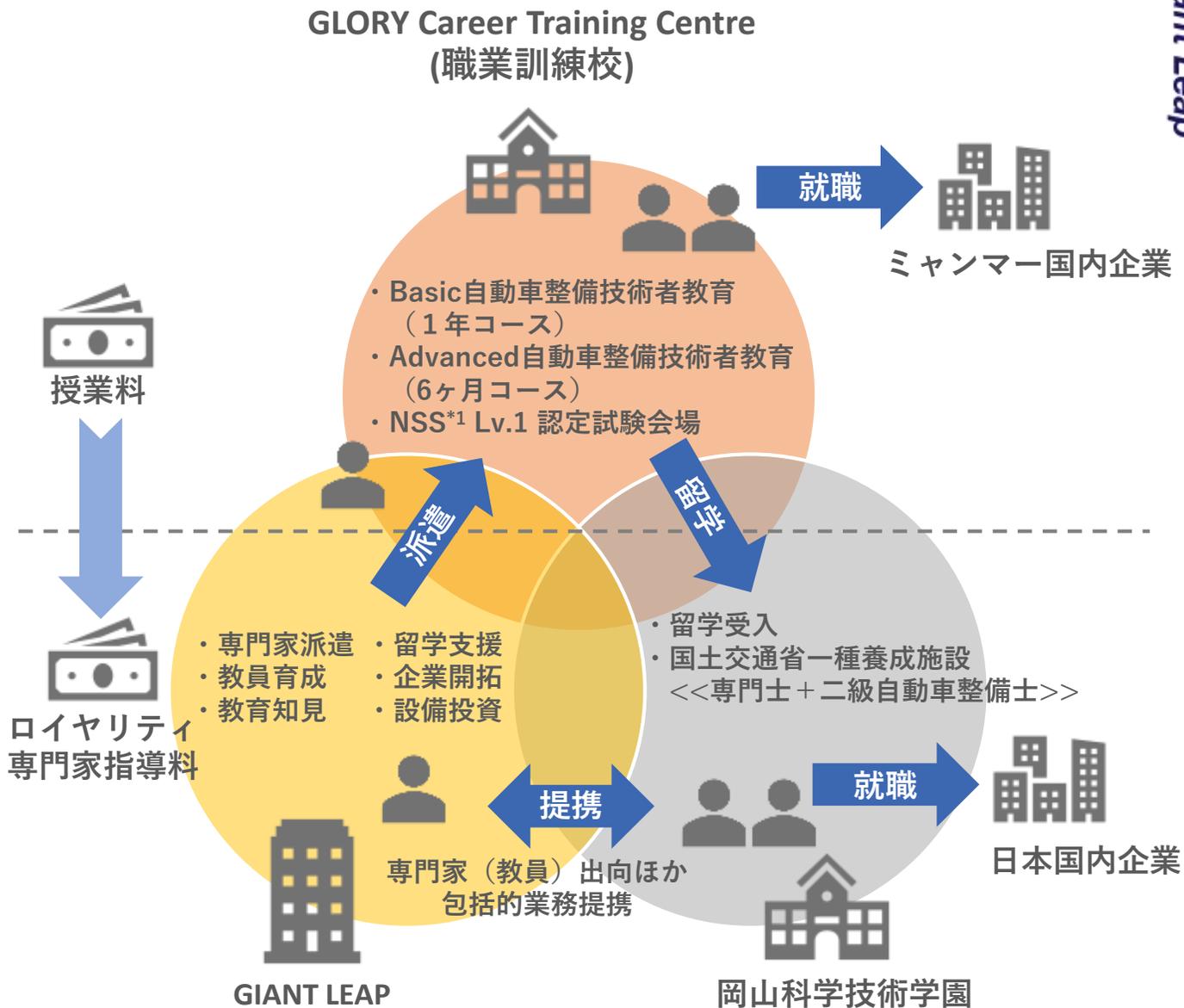


ジェトロ海外調査部 (2013)

「ASEANの産業人材育成ビジネスに関わる 進出日系企業のニーズと人材育成事例」
(調査レポート), <<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2013/07001431.html>>.

三社協働で、教育から就職までをサポート

2-3. 自動車整備士育成事業



専門技術と語学を1年間（月-金） 毎年4月・10月開始の二期制

三級自動車整備技術教育（学科＋実習）^{*1} + 日本語教育

2-4. 教育内容

- 原動機
- シャシ
- 電気装置

初級日本語



- 整備作業
- 計算
- 自動車工学
ほか

- 6S
- ビジネスマナー

^{*1} 国土交通省認定養成施設での教育内容を基に現地向けカスタマイズ

提携決断後はかなりスピーディ

2-5. 事業開始までの歩み



□ 日本でのイベント

○ ミャンマーでのイベント



2-6. 小さな課題を 数多く経験

準備期間は「無いもの」がたくさん

- 教科書の翻訳品質確保で苦勞
- 印刷・製本も試行錯誤
- 機械設備は何処で手に入る？

学生を集めると

- 高校卒業のはずだけど…基礎教育内容の違い
- 都市部は次第に集まりにくく

開講してみると

- 電力事情は噂通り
- なんとなく薄暗い？

卒業したその後は

- 有望な就職先を開拓
- 日系企業の活気に後押しされて

最後はやはりお金のこと

- 小口現金は落とし穴がいっぱい
- 日緬間での送金も

3. 事業資金について

設備投資は現地側、日本は役務提供に重心

	GLORY	KAGISEN	GIANT LEAP
主だった設備など 初期投資	○	—	—
現地スタッフ人件費	○	—	—
教材整備費	○	—	○
派遣教員人件費	○	○	○
追加設備投資	○	—	△ ^{*1}

*1 個別の追加毎に協議し分担

3-1. 事業資金

活用した支援制度

2013年

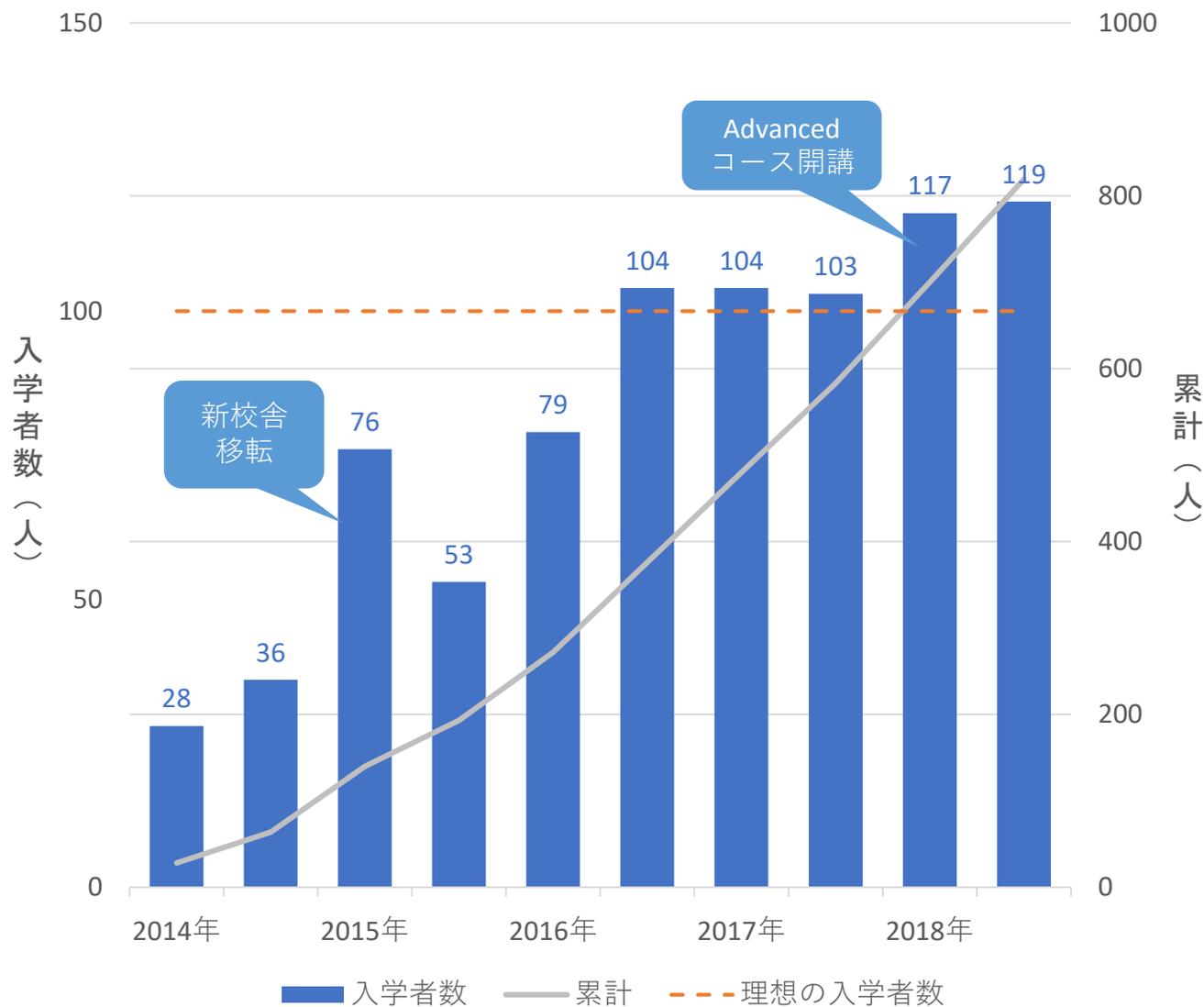
独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
「中小企業新興国進出支援専門家派遣事業」

2017年（6ヶ月間）

一般財団法人海外産業人財育成協会（AOTS）
「技術協力活用型・新興国市場開拓事業（研修・専門家派遣事業）」

開講3年目で入学者100人を越える

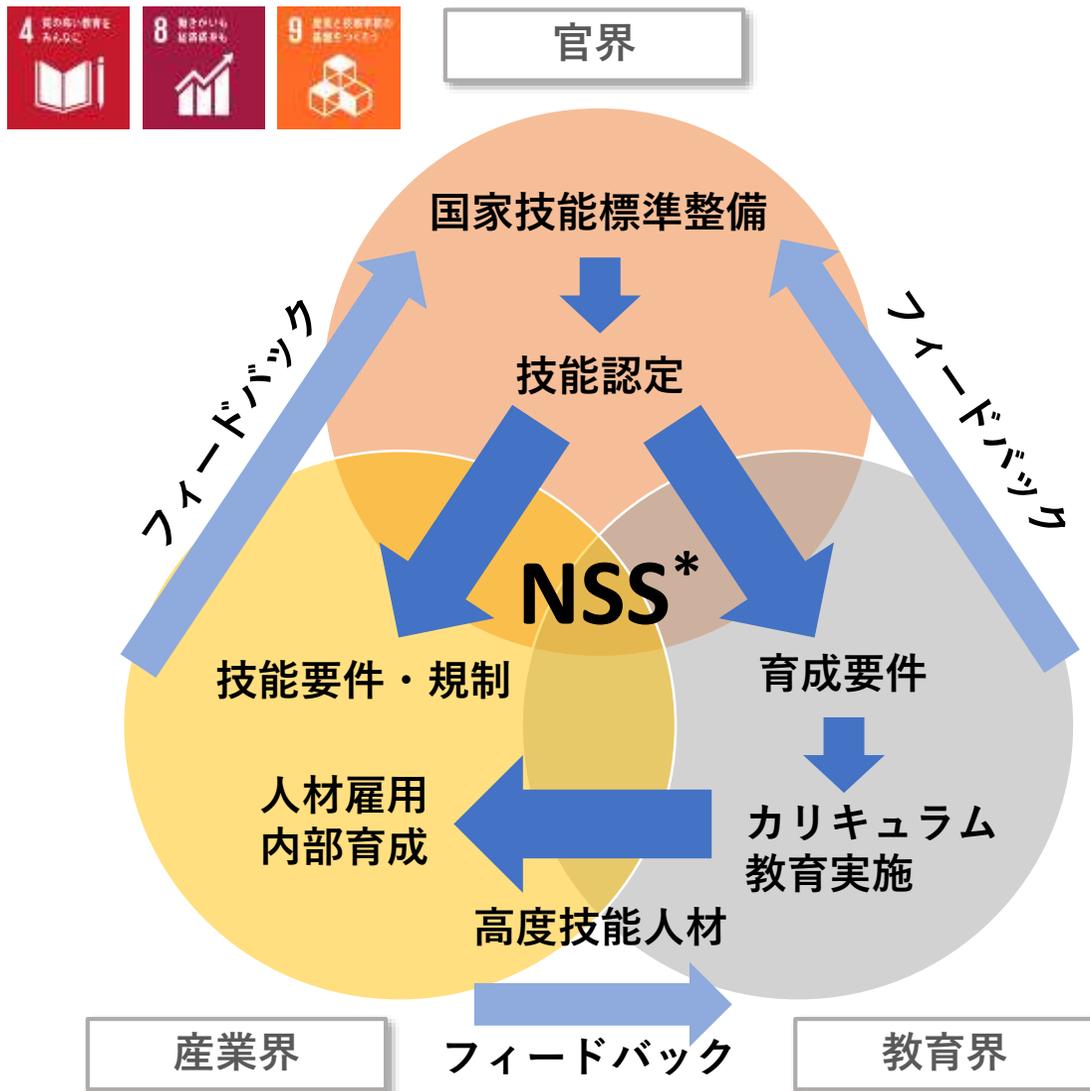
3-2. 入学者数推移



4. 今後の展望と EDU-Portニッポンの活用

技能標準－教育－雇用が三位一体の社会

4-1. 社会的 人財育成 サイクル



自動車メーカー、車体整備企業など

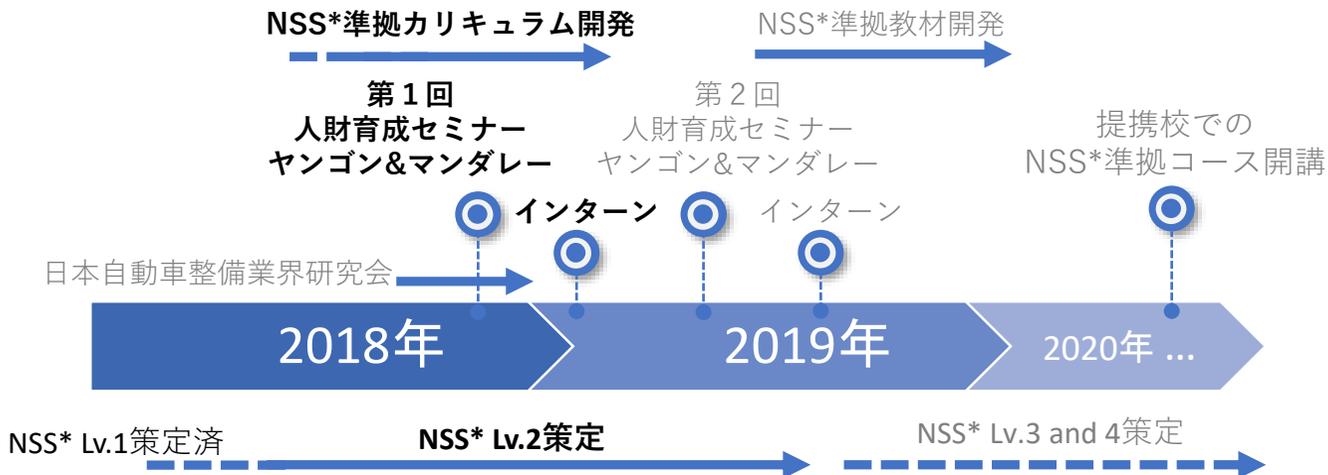
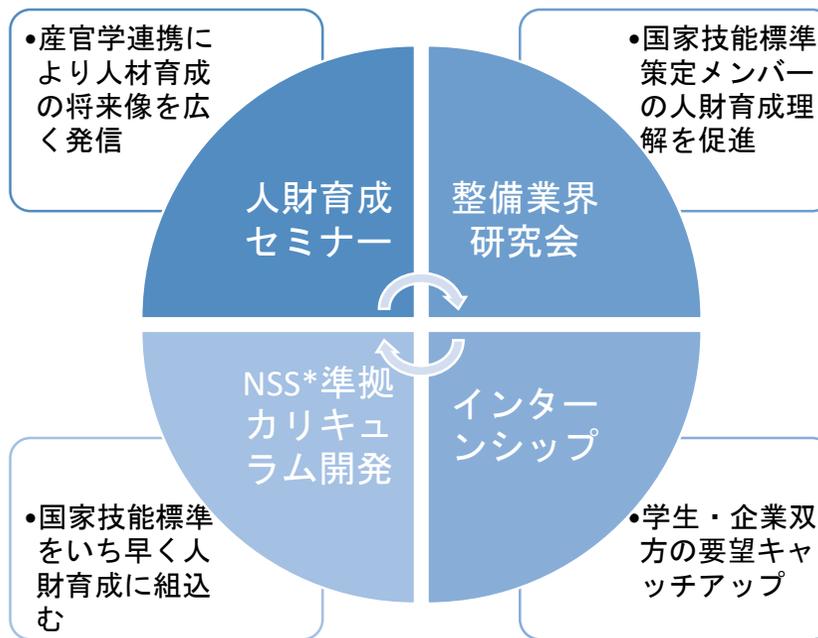
工業系大学、専門学校など

* NSS : National Skills Standards

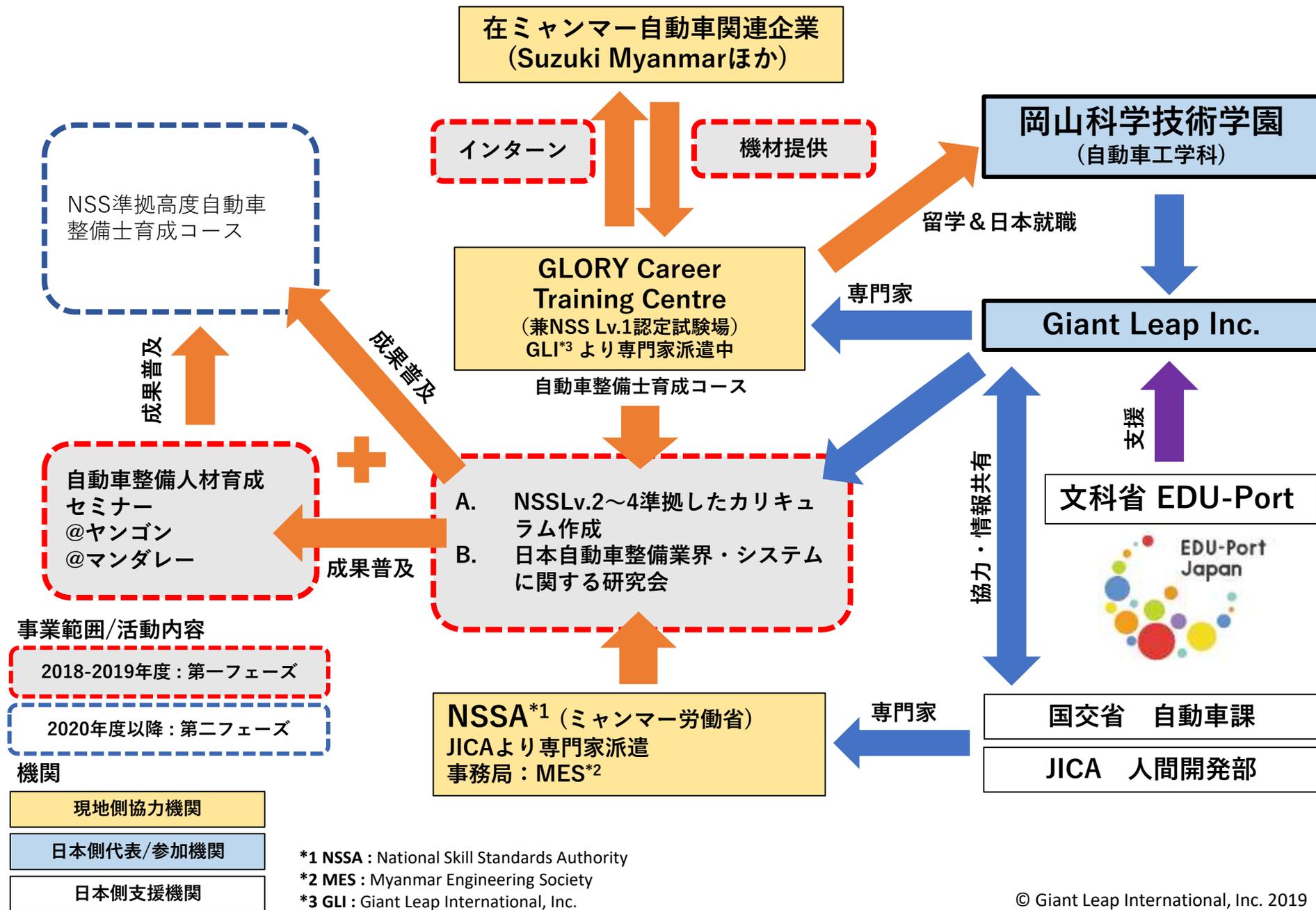
国家技能標準に基づく職業技術教育の実現へ

4-2. EDU-Port 公認事業の目的と概要

ミャンマーにおける自動車整備士育成のための実践的
日本型専門学校教育システムとカリキュラムの普及



4-3. 2018年度EDU-Port公認プロジェクト 実施体制



日本・ミャンマーの人財育成取組状況を幅広く紹介

4-4. 産官学連携 人財育成 セミナー



講演者



- ・ 国交省自動車課担当官
- ・ JICA派遣専門家（NSSA*¹在籍）
- ・ 日系自動車関連企業幹部
- ・ NSSA*¹代表

参加者



- ・ 現地所轄官庁職員
- ・ 工学系教育機関
- ・ 自動車関連業界の方々
- ・ 自動車分野に興味を持つ学生

- ・ 国家機関による技術標準の整備と認定制度
- ・ 認定教育機関による技術者育成
- ・ 産業界での有資格者就労受入とその待遇
- ・ NSS*²技術認定制度構築の取組み状況と将来像

ヤンゴンおよびマンダレーの二大都市で、産官学それぞれの立場から自動車整備に携わる人財育成に関心を持つ方々約300人が参加。日本、ミャンマー双方からの専門家が、日本の自動車整備制度や人財育成、ミャンマー国内での取組み状況、技能認定制度(NSS*²)の整備状況などを幅広く紹介。




EDU-Port Myanmar 18 Certified Project
HRD Seminar on Automotive Services & Maintenance
Yangon 14th DEC (Fri)
Mandalay 17th DEC (Mon)

Guest Speakers & Topics

Giant Leap International, Inc.

人財活躍の現場を体験



GLORY Advancedコース学生

- ・実業の場で求められる技術の把握と確認
- ・高度な作業環境の体験
- ・就業先候補としての将来性確認



自動車関連企業（6社）

- ・高度な技術習得に必要な機材提供
- ・教育機関に対する人財育成要望
- ・将来の人財確保



- ・企業側および教育側双方の声を技術標準策定に反映
- ・学生、企業双方から教育に求められる実像を把握

4-5. インターン シップ



最後に

事業立上げ成功のポイント

- 日本側の得意分野、かつミャンマーに未だ無い分野に集中出来た
- 教育施設として実績のある同業者と提携した
- 現地資本主導の投資により法的な規制をかなり回避

反省点および今後の課題

- 外国法人による役務提供には困難や限界も
- 育成した人財のキャリアパスがますます重要
- 国家技能標準など現地社会の発展に遅れないように

EDU-Portニッポンについて

- 短期的・実験的な実証にとどまることなく、日本と対象国の間での中長期的な教育実現に是非ご支援を

お問い合わせ先：

株式会社ジャイアントリープ・インターナショナル

 edu-port@giantleap-intl.com



THANK YOU!

“That's one small step for a man, one giant leap for mankind.”